

目に発行部数の多い優れた「ロータリーの友」誌に、会員各位や地域社会の人々の関心を喚起してください。

◎ミネアポリスへ

国際ロータリーの世界大会は、ミネアポリスのセントポールで開催されます。是非、ローザンスに負けないほどの出席をお願いします。ロータリアンたるもの、国際大会は体験すべきものであります。

◎プログラムのお知らせ

2月6日 冬と私達の命 深瀬会員  
2月13日 金融あれこれ 山崎会員

★★お願い

10周年記念誌に載せる各会員からの原稿を是非お寄せ下さい。49年1月末日まで。内容はクラブに対する感想文・ロータリー活動の在り方又は意見・俳句・短歌なんでも結構ですからお願いします。

◎出席報告

	会員数	出席人数	欠席人数	他クラブ出席人数	出席率(%)
49. 1. 16	57名	34名	23名		
49. 1. 9	57名	40名	17名	10名	87.72%
在函クラブ	(12/25) 函館東R.C. 98.98%	(12/27) 函館R.C. 92.06%	(12/28) 函館五稜郭R.C. 100%		

★第481回例会欠席者

岩塚・下郡山・小村・新・飯田・川筋・成沢・杉本・成田・柴田・本間(利)・駒井・佐々木・広瀬・石橋・神原・熊谷・森(正)・大嶋・椎谷・西巻・戸栗・山内(文)  
(23名敬称略)

**次回例会日 1月30日**  
プログラム 『日本経済の現状』 商工中金・函館支店長  
大森 恒信氏

The Weekly Report of Hakodate North R.C.

事務所  
函館市大手町5-10  
日魯ビル 3階  
☎ (0138) 23-3870



例会場 函館市大手町5-10  
国際ホテル ☎ (0138) 23-8751

例会日 毎週水曜日 12:30-13:30

1974. 1. 30

**第483回例会**

1973~1974 第29号

『A Time for Action』 今こそ行動のとき  
(William C. Carter R.I. 会長指針)



友愛 戸崎孝二 会員

本日のプログラム  
『最近の金融情勢』 商工中金函館支店長  
大森 恒信氏

**第482回例会記録**

- 司会 駒井 幸一 会長
- 斉唱 我等の生業
- ゲスト 北海道教育大学教授 文学博士 加賀 栄治氏
- ビジター 網走西R.C. 350地区石油配布 新谷 泰造君  
函館R.C. 川端 久雄君 他9名  
函館東R.C. 西村 敏雄君 他3名  
五稜郭函館R.C. 小川 享君 他3名  
亀田R.C. 田中 仁君

## ●幹事報告

七飯クラブのホストのゼネラルフォーラムの議題提出は今月一杯、来たる30日が1月の最終例会となりますので、その日までに提出していただきたい。

会報の如く、前回の夜間例会は出席34名で非常に有意義な例会であった。この事については会報にのせたが、今後も数多くやってゆきたい。

前回もお願いした会費納入の件、出来れば今月中にお願いしたい。例会終了後、理事会を開きますので理事の方はお残り下さい。

亀田R.C. インターアクト委員長の星野君から御案内が参っております。昨年来の計画であるインターアクト、ローターアクトの合同交歓ボーリング大会を行ないますので一人でも多くの参加を望みます。場所はダイヤボール。1月27日(日) 午前10時集合。

参加料は無料。幹事事務局に連絡されたい。

## ●親睦活動委員会

前回の新年宴会をかねました夜間例会は皆様の御協力を得まして無事終了しました事を厚く御礼申し上げます。駒井会長より前回の夜間例会欠席との事で御寄附をいただきました。

## ●卓 話 孔孟思想と始皇帝、北海道教育大学教授 文学博士 加賀 栄治氏

昨年秋頃より中国本土に於て、秦の始皇帝の再評価がなされ、それと同時に孔子の批判がなされていると云うニュースを皆様はお聞きになったと思います。

秦の始皇帝と申しますと御年配の方は古来稀にみる暴君であると云うイメージをもって居られると思います。中国でも長い間、暴君としてのイメージでおおわれております。歴史上からみると中国で最初の統一した帝国を作った人として、とりわけ新中国で新しく評価され直している。云うなれば昨年秋の始皇帝の再評価はその延長であると考えられる。中国に於て最初に統一した帝国を作った事は、中国の歴史上大変意義の深い事であり、大変な変革であったとみてよい。

現在の中国本部の殆どの領土の範囲が始皇帝によって統一された範囲であり、今日漢民族と云われる現在の中国民族の統一した民族意識を高めたのもそれに厳格なる法律を施行して能率のよい合同的な行政組織を作ったのも秦の始皇帝である。

それまでは中国は多くの小さい都市国家に分れて、その小国家では玉朝である周を中心として、いわばこれを本家として、地方の都市国家が分家の形で各地に存在した。小さな都市国家は世襲制で、中心の考え方は家族制度である。家族制度をもとにし先祖崇拜の宗教的儀礼とそれに伴うモラルをもとにして封建制度が秦の統一以前の国家体制であった。

法をもとにした秦が各地に直轄をする形で県、郡を作り統一した。統一国家の具体的な内容は①法律の統一。それまでの中国には戦国の七雄と云われる七つの国家があり、中国を分割していた。夫々違った法律を施行していた。これを一本化した ②文字の統一。文字が夫々の国で違っていたのを一本化した。この結果は非常に大きい ③貨幣の統一 ④度量衡の統一。これ等の色々な統一を実行し、これは其後の中国にもひきつづいて施行されていた。そこに働らく力は非常に強力な統制力であり、バックには強大な武力がある。そこに働らく強制力が法であり、絶対的な王朝である。この為ここに生ずる現象は批判される様な非常にきびしい悲惨な状態となる。例えば多くの人民が強制的に大土木工事に従事させられる。大道路の建設、各地から都に向う道路を作る。阿房宮と云う大宮殿を作るにも多くの人間が労働に従事させられた。

万里の長城、煉瓦で固めたものは新しい時代(明)に入ってからで、当時は各々の国、

趙とか魏が異民族の侵入を防ぐ為に土をかためた壁を作っていた。これを春秋時代につなぎ合わせて作ったのが万里の長城である。これは強制で作られたので人民の不満を呼び非難が出る。このやり方に対しイデオロギー的に反対の立場をとる思想が中国には伝統的にある。秦のやり方は法律を厳重にする事により規制力を働かせ中央に権力を集中する。つまり集権的統一をはかる。これに対し、それは人間の本性に反する、本性は自己の内部から発生する善意にあり、善意をもとにして働かねばならないと云うのが儒家思想である。

中国の民族は農耕民族であり、元来農耕民族は反戦的である。これは戦争になると農民が真先に徴兵されるからである。人民には無用な負担をかけない、戦争にかりたてない様にと云う思想、その代表的なものが儒家である。今の様な秦の政策は当時に於て既に不平不満がおこっていたばかりでなく、始皇帝が死んですぐ内乱がおき、次の帝国となった漢に於ても秦のやり方を実際には採用しているが外側にかけたものは儒家的なものである。従って漢代以後は秦のやり方は間違っている事をイデオロギーとして出している。

これが後世ずっとつづいてきた為に秦の始皇帝は暴君であると長い間中国で云われていた。しかし例えば全国統一、大道路の建設、これ等は統一した大国家を作る時はどの国家をみても当然のことである。大帝を建設しないのであれば儒家的な考でよい訳であるが大帝国を作ろうとすれば秦の歩いた道は歴史的必然的なものである。これを批判し、道徳的側面から善意の否定であり、人民を無益の事にかりたてる残酷さであり且殺戮をくり返す戦争は許せないとする事は、建設の過程を全部抹殺する事であり、歴史の動きにそくしてゆけない観念論である。勿論批判は自由であるが、歴史家は秦のやり方、始皇帝のやり方について客観的にみてゆこうとする。これは新中国が出来てからではなく、それ以前から秦の始皇帝を暴君視する見方に反対の見方をするものがあり、異端視されていたが、中国の学門の歴史からみるとこの考えはぼつぼつ出ている。

しかし全体として歴史の必然的流れに於てとらえてゆく事により秦のはたした役割は極めて大きいものであると評価したのは新中国になってからである。おそらく今後もこの考えは変わらないと思う。つまり秦の始皇帝を評価する上での基本線は大国家、大帝を建設する過程に於ては必然的営みであったと云われる。

而し乍らその中でとり返しのつかないミスはおかしている。人は秦の始皇帝はぜいたくをしすぎていると云う。例えば阿房宮の如く、東西 700m、南北 150mの大建築、これは宮殿と云うより大スタジアムに近い。ローマ帝国やギリシャに於てもやはり権力の象徴として作られている。始皇帝の陵は、帝が死んだ時には未完成であったが、この遺跡は現在もこのこっており、350m四方、高さ58mの陵で、土中に地下宮殿がある。これ等の規模は大したものであり、おごりすぎであると云う方もあるが、もっともぬぐいきれない罪悪は極端な思想弾圧にあったと思う。これは始皇帝の最期の時期であるが、焚書抗儒と云われ、儒聖をあなにし、書物を焼くと云う極端な思想弾圧で大きいマイナスの面を現わした。色々な点でその功罪をあげる事は出来るが、今日中国の歴史家は去年の再評価でも秦の始皇帝の果たした歴史的役割を高く評価している。

特に昨年秋の中国の十全大会が行なわれた後に始まった再評価に於て、始皇帝は当時大きい勢力をもっていた大貴族、各国の王族などの勢力を打破し、新たに起ってきた小地主、農民の立場にたつて中国の統一をはかったのだと云う。そしてすぐそれを孔子批判にもっていったと云うのは、これが孔子批判の為の便法であったと思われる。孔子の思想の立場も周の封建制度を維持するモラルが礼であり、社会慣習のきまりであり、人

間の本来もつ道徳性にもとづくもので、その最高のものが仁である。孔子は大貴族、王族の立場にたつ人間であり、中小地主、農民の立場にたつ人間ではないのだから孔子は批判されるべきだと云う。つまり始皇帝の再評価したのを孔子の批判にもってきている

孔子の集団は当時は低いの人々であり、これを教育して国に仕える人材を養成した何故孔孟批判が行なわれているか。周恩来が日本記者団に語った所によるば、かつて周恩来が批判されて林彪の次には周恩来が失脚するのではないかとの想定が流れた時、周恩来は批判の対象でない事をのべ、林彪、劉少奇批判の徹底化であると云う。中国の組織体のキャップになる者には権力が集中してくる。権力者のもつ働きは非常に大きく、その人達のもつ、又は現わす言葉、概念は大きく、これ等の人が民主とか仁義、平和などと云う時は、言葉そのものが権力に密着して動き出す。吾々は民主、平和については誰も異議をさしはさまないけれども、それを使う使い方によりどの様にでもなる。しかも権力をもつ人により使われる事によりその力は一層大きくなる。

儒家のモラルとしてたてられた徳目、仁は愛であり、義は正義である。これが一度権力者に使われる事により非常な働きをもつ、いわば悪用される。権力をもつ者が利用する事を打破しなければならない。孔子の徳目を権力に結びつけるものであるとされた。人間のもつ道徳と組織の規制(法)とのからみ合いをどの様にして解決するかの問題となる。これが新しい中国がこれから生成発展してゆく上に悩みつけてゆく事ではないかと思われる。あくまでも中国に於ける政治、機構、組織が権力集中による弊害を除去する為に思想運動が行なわれているのではないかと思われる。

●出席報告

	会員数	出席人数	欠席人数	他クラブ出席人数	出席率(%)
49. 1. 23	56名	33名	23名		
49. 1. 16	56名	34名	22名	17名	91.07%
在函クラブ	(1/8) 函館東R.C. 99.01%	(1/9) 函館R.C. 96.00%	(1/10) 函館五稜郭R.C. 100%		

●第482回例会欠席者

大嶋、本間(利)、岩塚、杉本、川筋、平野、戸栗、山本、高杉、小笠原、成沢、佐々木沢村、柴田、渡部、佐藤、平山、山崎(尚)、大江、石橋、山崎(幸)、山矢、成田  
(23名敬称略)

次回例会日 2月6日

プログラム「冬と私達の命」深瀬会員

The Weekly Report of Hakodate North R.C.

事務所  
函館市大手町5-10  
日魯ビル 3階  
☎(0138) 23-3870



例会場 函館市大手町5-10  
国際ホテル ☎(0138)23-8751

例会日 毎週水曜日 12:30-13:30

1974. 1. 30

第484回例会

1973~1974 第30号

‘A Time for Action’ 今こそ行動のとき

(William C. Carter R.I. 会長指針)

友愛

友愛 戸崎孝二会員

本日のプログラム

「冬と私達の命」深瀬会員

第483回例会記録

- 司会 駒井 幸一会長 ●斉唱 手に手つないで
- ゲスト 函館R.C. 大森 恒彦君  
吉井会員ゲスト 堀内 彰君・北川社一郎君  
函館R.C. 桜井二三彦君・庄子 正治君・坂本 運平君・植松 敏夫君・川端 久雄君・小野 俊男君・外山 健吉君・吉野谷正徳君・榎本二三男君・池田 佑吉君・ほぞじゅんじ君・鈴木 意雄君・棟方 忠君  
函館 東R.C. 山中 一君・小泉 新一君・中沢 竹也君・原田 嘉